

寫されてゐる。

たゞ巻末の Bibliography は所々に散在する材料を詳細に調べて分類してあるので非常に便利である。 [井筒俊彦]

彙 報

一、十二月三日午後一時半より東京帝大法文經第三十七番教室に於て第二回講演會を開催。聴衆約五十名。講師並に演題は以下の通り。

後藤朝太郎氏 支那奥地の方言に就いて

宮良當壯氏 南島方言と東北方言との交渉

一、海外學會との交換のため、本誌を若干寄贈した。

一、「ふりがな廢止論とその批判」(昭和十三年十二月白水社發行)の印税三百圓が山本有三氏の發議により寄稿家各位の賛同の下に、ふりがなの研究をする人の研究費の一部にあてる爲、本會に寄附された。尚ほ本寄附金は、山本氏が前掲の書の「まへがき」XXIV 頁で云つてゐられる様に、廢止論に都合のいいやうな研究のためではなく、嚴正な立場からのそれにあてるものであることは云ふまでもないことである。ここに山本氏をはじめ本書の寄稿家諸氏及び白水社に深く感謝の意を表する次第である。

第二回日本言語學會總會を來る五月十三日(土曜日)午後一時半より東京帝國大學法文經教室にて開催、事務報告の後金田一京助・小林淳夫・淺井惠倫の三氏の講演の豫定。會終了後、山上會議所に於て晚餐會を催します。會員諸氏は奮つて御出席下さる様お願い致します。尚ほ講演會は一般に公開です。演題その他細目に關しては、後程御案内状にてお知らせ致します。